超高感度ラットインスリン測定キット　操作マニュアル

検体5μLで測定する場合
・測定は二重測定でおこなってください。
・すべての試薬は常温に戻してから使用してください。
・標準曲線用インスリン溶液および検体を分注する際、ピペッティング容量にばらつきが生じないよう注意してください。

1.洗浄液、インスリン標準溶液の希釈系列及び検体を
取扱説明書の「試薬の調製法」を参考に調製しておきます。

1次反応

2.A 抗体固相化プレートを常温に戻した後、アルミ袋から取り出し、
プレート用フレームにセットします。

3.各ウェルにG 検体希釈液を95μL分注します。



4.各ウェルに標準曲線用インスリン溶液、または、検体を5μLずつ分注します。
（一次反応の全液量は100μL/ウェルとなります。）



5.付属のプレート用ふたをして、4℃で2時間静置して反応させます。

2次反応

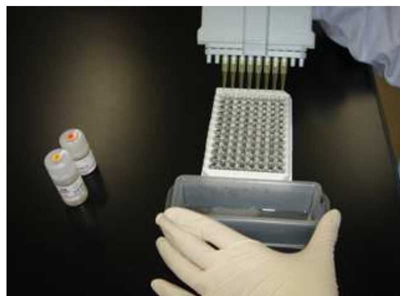
6.ウェル内の溶液を完全に除去し、各ウェルあたり300μLずつの洗浄液で5回洗浄します



7.最後の洗浄でウェル内に残った溶液を完全に除くため、洗浄が終了したら、完全に緩衝液を除去するためにきれいなペーパータオル上でプレートを叩きます。



8.酵素標識抗ラットインスリン抗体溶液（「試薬の調整法」に従い調製したもの）を各ウェルに100μLずつ分注します。



9.プレート用ふたをして常温で30分間静置して反応させます。

酵素反応

10.ウェル内の溶液を完全に除去し、各ウェルあたり300μLずつの洗浄液で7回洗浄し、最後は叩きます。



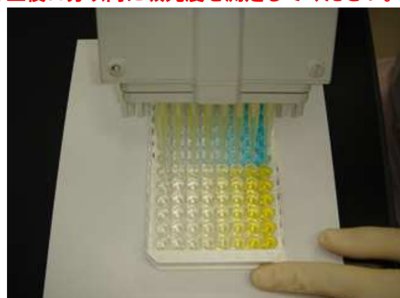


11.E 酵素基質溶液を各ウェルに100μLずつ分注し、遮光下常温で正確に40分間静置して反応させます。





12.F 反応停止液を各ウェルに100μLずつ分注して、酵素反応を停止させます。
＊酵素反応停止後30分以内に吸光度を測定してください。



13.プレートリーダーで450nm（副波長630nm）の設定で吸光度を測定します。



23.標準曲線用インスリン溶液の吸光度より標準曲線を作成し、検体中のインスリン濃度を求めます。
＊詳しくは、取扱説明書の「インスリン濃度の算出法」をご覧ください。

標準曲線例

